102)　哀しみを歌にして

さよならの走り書き　　テーブルの上に置き
ただひとり後にする　　北国の城下町
ゆく道は険(けわ)しくて　　粉雪(こなゆき)が舞っている
哀しみを歌にして　　われは行くこの道を

愛(いと)しさに後ろ髪　　引かれても戻るまい
苦しみを噛みしめて　　愛のため殉じたい
行く道は険しくて　　あてもなき旅人よ

目を閉じてすぎし日の　幻を追いかける
若き日に求めしは　　すべてみな空しきを
行く道は険しくて　　照らすもの何もなし

走り出す列車から　　警笛が木精(こだま)する
君の名をそっと呼び　　さよならをくりかえす
窓をゆく雪景色　　涙目ににじんでく
哀しみを歌にして　　われは行くこの道を
哀しみを歌にして　　われは行くこの道を